

二〇一三年 三月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

## 今月の言葉

耐え忍ぶこと、ことばのやさしさと、  
諸々の道の人に会うこと、適当な時に理法りほうについての教えを聞くこと、  
これがこよなき幸せである。

## 『スッタニパータ』

幸せって何でしょう。仏教では精神的豊かさだと説かれています。具体的には根本的な煩惱ぼんごである「怒り・貪り・無明」の克服です。ではどのようにして克服できるのでしょうか。

まず、怒り。「なぜ私にそんなことを言うのか…」。心無い言葉に、怒りがこみ上げることがあります。怒りから離れるには、怒りをあらわにせず、ただ「耐え忍ぶこと」だと言います。その習慣によって、さらなる困難から心を平静へいぜいに保つことができると言われています。次に、貪りの心。「あれもほしい。あありたい。こうしたい…」。そんな貪りの心から離れるヒントは、与えることにあります。ものを与えることだけではありません。挨拶や励ましなどの「ことばのやさしさ」をプレゼントすることも与えることです。

何よりも問題なのは無明、すなわち教えを知らないこと。両親・先生・先輩・友人などの尊敬・信頼できる「人に会うこと」、仏教の「教え（理法）を聞くこと」を通して、精神的な豊かさを得ることができのです。

これらの精神的な豊かさが、「こよなき幸せ」だと今月の言葉は教えてくれています。

## 今月の聖語

これからがこれまでを決める

ふじしろとしまろ  
藤代聴磨

今月で年度が終わりますが、「これまで」の学校生活を振り返ってみて、どうでしたか。

「勉強をしなければならぬとわかっているけど、やる気がでない…」「友達とうまくいかず、つらい…」。これまでに問題を抱えてきた人は少なくないと思います。

たしかに、これまで（過去）がこれから（未来）を決めることはあります。また、これまでによってしまったことを変えることも、なかったことにすることもできません。

しかし、これからの生き方次第で、これまでの過去のもつ意味が変わることがあります。現状の問題点を打開しようとするならば、過去の失敗は良い経験になります。一方で、現状に満足し自らを省みないのであれば、失敗は失敗のままです。そういう意味で、過去は変わるものであり、変えられるものなのです。

「私には無理…」「これまでもそうだったから…」と一歩踏み出せずにいるあなたの背中を、後押ししてくれる。そのような力を今月の聖語はもっているのではないのでしょうか。

合掌

宗教教育係